

ゴミ焼却場クレーンのインバーター

復旧システム拡販

日立プラントメカニクス 400カ所に営業攻勢



高効率な焼却場の多くは、ゴミ発電設備を併設する

日立プラントメカニクス（山口県下松市、橋本直人社長、0833・41・3080）は、ゴミ焼却場クレーンに使うインバーターの復旧システムを拡販する。故障した際、正常なインバーターに素早く切り替えられ、操業停止を回避できる。高効率な焼却場400カ所を主対象にし、営業体制を整えて本格販売に着手する。

クレーンを制御する「カー」などで構成する。インバーターは、前兆故障したクレーンのイもなく故障することがインバーターと、隣接するあるという。今回の復旧する正常なクレーンのインシステムは非常切りンバーターを配線で結替えスイッチやブレーンで、切り替える仕組

み。

正常なインバーターを流用することでモーターやブレーキの操作を可能にし、故障したクレーンを作業場から移し替えられる。通常、故障が起きると手でクレーンを持ち上げて移すという。高効率な焼却場の多くは、ゴミを燃料にした発電設備を併設している。故障が起きると焼却場の操業を停止し、発電を止める必要があるため、ゴミの受け入れ中止や電気代の負担増が生じていた。また故障に備えて代替のインバーターを設置することはコスト面で難しかった。

同社は、ゴミ発電を行う焼却場などに導入を喚起する。すでに数件の実績を持つが、今後は営業体制を整え、400カ所の焼却場に売り込む。